

2. 「石山(大坂)本願寺」

(1) 蓮如上人と「大坂御坊」

・本願寺の8世・蓮如は、延徳元年(1489)に法主を実如に譲って隠居したが、布教活動には熱心で度々大坂にも出向いていたが、明応5年(1496)9月、生玉庄大坂の地に坊舎の建設を開始し、「大坂御坊」を建立した。この頃の様子を蓮如上人が記した「御文(オミ)」が残されており、この中に記された「摂州東成郡生玉ノ庄内大坂」が、「大坂」という地名を記した最初の記録とされている。



蓮如上人の「御文(オミ)」

『天文日記』によると、この大坂坊舎は、「生玉八坊のひとつ法安寺の東側に建立された」といわれ、当時は小堂であったと考えられている。

(2) 「石山本願寺」と寺内町

・天文元年(1532)8月、細川晴元、近江守護・六角定頼と法華宗徒との戦いによって山城国の山科本願寺が焼き打ちされた(山科本願寺の戦い)ため、本願寺教団の本山が「大坂御坊」に移され、「石山(大坂)本願寺」となった。

この間も細川晴元らとの抗争が続いていたため、石山本願寺は寺領を拡大し、周囲に堀や土塁を築き、塀・柵をめぐらして防備を固めていくとともにその後、西日本や北陸を中心とした門徒達が集まって寺内町を形成し、財力を蓄えていった。

イエズス会のガスパル・ヴィレラは永禄4年(1561)8月の手紙で、「日本の富の大部分は、この坊主の所有である。毎年、はなはだ盛んな祭りをを行い、参集する者ははなはだ多く、寺に入ろうとして門の前で待つ者が、開くと同時に競って入ろうとするので、常に多くの死者を出す。〈中略〉夜になって坊主が彼らに対して説教をすれば、庶民の多くは涙を流す。朝になって鐘を鳴らして朝のお勤めの合図があると、皆、御堂に入る。」と報告している。

・生玉庄と呼ばれていた当地が、なぜ「石山」と呼ばれるようになったのか、理由は明らかになっていないが、蓮如の孫である顕誓が永禄11年(1568)に書いた史料によると、「明応第五ノ秋下旬蓮如上人(中略)一字御建立、其始ヨリ種々ノ奇端不思議等コレアリトナン。マヅ御堂ノ礎ノ石モネカネテ地中ニアツメキタルガ如云々」とあり、そのまま礎石に使えらる大きな石が土中に多数揃っていたという状況に因んだものであろうとされている。

なお、「石山本願寺」の呼称については、近江(大津)の石山と混同されて紛らわしいことから、最近の研究者の間では、「大坂本願寺」と呼ぶように提唱されている。

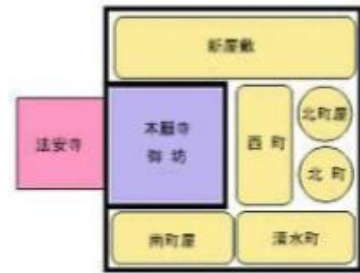
寺内町について

・「石山本願寺」と寺内町の場所については、先の『天文日記』に「法安寺の東側」とあるが、その遺構が発掘されていないため確定はされていない。主な説として、「大坂城本丸周辺」説(『大阪市史』:昭和2年刊)や大坂城東南部の「法円坂」説(『大坂城の研究』:昭和28年刊)があるが、いずれにしても上町台地の北端部であることに間違いない。

現在、大阪城内・「修道館」北東角に「石山本願寺推定地」碑があり、「二の丸」にあたる梅林南側に「蓮如上人袈裟がけの松」碑(「南無阿弥陀仏」と刻した円柱石碑と「松の巨木の根」)

が設置されている。なお、この「袈裟がけの松」碑の説明板には、「当時(蓮如の石山本願寺草創期)ノ寺跡ハ此地ニシテ商人ノ袈裟掛松ト称スル老松ノ旧株 猶 存セリ」と記されているが、その真偽は不詳である。

- ・石山本願寺には門前町というより本願寺御坊の警備を兼ねて多くの門徒衆が住み着き広大な寺内町が形成されていった。
- ・天文初年(1532～)には、北町、西町、北町屋、南町屋、清水町、新屋敷の6町を数え、天文5年(1536)頃には檜物屋町、青屋町、少し遅れて造作町、横町が加わって、本町6町と枝町4町との10町を数えた。
- ・これらの町の位置についても研究者の間でいくつかの案が示されているが、そのひとつが右図である。



石山寺寺内町概念図

なお、枝町の青屋町については、大坂城青屋口・青屋門がその名残とされており、かつて青物市が開かれていた場所ともされている。(なお、この点について、青屋町の“青”は藍の青で、藍染職人が集まっていたとの説もあるが、生活に密着した青果物を売る青物市とみた方が現実的と思われる。)

(3)「石山合戦」と寺内町の焼失

- ・天下統一を目指して上洛した織田信長は、元亀元年(1570)正月に石山本願寺の明け渡しを要求した。これに対し、11世・顕如は全国の門徒衆に対して、武器を携え大坂に集結するように檄を飛ばし、同年9月に打倒信長に向けて決起した。戦いは10年に及んだが、籠城戦に入った本願寺側に対し、信長による全国の一揆平定によって諸国の門徒からの救援が乏しくなり、天正8年(1580)閏3月に正親町天皇の勅使・近衛前久の仲介による講和を受け入れた顕如は、4月に石山本願寺を明け渡して雑賀へ退去した。しかし、長男の教如は徹底抗戦を主張して籠城したが、同年8月に近衛前久の説得に応じて石山本願寺を明け渡した。教如が退去した直後に寺内町から出た火の手が3昼夜続き、堂舎・寺内町のすべてが灰燼に帰した。



「蓮如上人袈裟懸けの松」碑